



2021年5月31日発行  
あさひ保育所

## スマホのお話です

スマホの普及とともに、テレビや雑誌などのメディアで“スマホ子守り”という言葉を見聞きするようになりました。日本小児科医会も「スマホに子守りをさせないで!」と呼びかけをしています。スマホ子守りとは、親が絵本の読み聞かせや散歩、会話などの子守りをする代わりに、スマホの動画やゲームアプリなどを使わせることです。どんな影響があるでしょう…

幼児期の子どもにスマホ子守りをする事で、たとえば、スマホ依存になり大人になってもスマホがないと不安やイライラが募るようになる。また、スマホばかり見ることで視力が低下するだけでなく、体を動かす機会が減って運動不足になる可能性があるという心配。少しの間だけスマホを持たせることに問題はありませんが、それが長時間にわたったり頻繁になっている場合には注意が必要です。子どもの成長と将来の健康を守ってあげましょう。

### ～豊かな時間を過ごしましょう～



赤ちゃんとも目と目を合わせ、語りかけることで、赤ちゃんの安心感と親子の愛着が育まれます。

親子が同じものに向き合って過ごす絵本の読み聞かせは、親子が共に育つ大切な時間です。



五感や体力を育て、毎日が新しい発見や体験の連続です。



子どものやりたがる気持ちを大切に。親子のかかわりで生活能力、役立ち感が養えます。



親の顔と声と手は、赤ちゃんにとって最高のおもちゃです。



散歩や外遊びなどで親と一緒に過ごすことは子どもの体力・運動能力そして五感や共感力を育みます。

“親と子のふれ合いへの影響”乳幼児期は、親とのふれあいをとおして人になっていきます。言葉をはじめ、人としての能力のすべてとってよいほどのものを身につけていくものです。絵本を見られるアプリなどもありますが、そういうものはそもそも絵本とは言えませんね。

すでに、青少年に限らず大人でも、電子メディア中毒が社会的な問題にもなっています。子どもを育てるのがむずかしい時代になったとも言われていますが、その場の状況でやむを得ないときがあるにしても、それでも、スマートフォンのかわりに絵本を携えたり、懸命にあやしたり、手近な物で注意をそらしたり、そんな努力をしながら、このときを乗り切っていってほしいと願います。そんな苦労は、きっと、のちのち良いこととなって返ってきますよ。